

I 実践

1 研究主題

『やさしい気持ちで友だちとかかわり、認め合い、助け合う児童の育成』

(1) 主題設定の理由

日々の学校生活の中で、児童はさまざまな思いをい দিয়ে学習活動に取り組んでいる。一人一人がその存在を認められ、充実した気持ちで過ごすことができる必要があると思う。児童の人権についての意識を高め、互いにやさしい気持ちをもってかかわっていくことができるようにすることが大切であると考え、この主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 人権メッセージなどを活用した意識の高揚
- イ 人権週間（やさしさいっぱい週間）の実施
 - ・やさしさいっぱいカードの活用
 - ・道徳や学級活動の時間における指導の充実

2 実践内容

(1) 人権メッセージの応募に伴う学級活動や道徳の実践

「人権メッセージ」への取り組みは、児童が人権について考えるきっかけとしてとても有効な方法であると思われる。人が人として認められ、その存在意義をもって生きていくことは、あたりまえのことのようで、さまざまな障害にはばまれることもある。人権について自分なりに理解して、自分の思いをこめて短い文に表現することで、人権についての意識が高まっていくものと思われる。

(2) 人権週間（やさしさいっぱい週間）の実施

やさしさいっぱい週間（人権週間）について

H 2 2 . 1 1 . 2 9

豊浦小 人権教育部

1 ねらい

- ・友だちにやさしくする努力をすることによって、人とのかかわりを見直し、互いに理解を深めて円滑な人間関係を築いていくことができる気持ちを育てる。

2 実施期間

平成22年12月6日（月）～10日（金）

3 実施内容

< 事前指導 >

- ・道徳や学級活動の時間を活用して、やさしさや思いやりの気持ちについて考えを深める機会をもつ。

< 実施期間中 >

- ・やさしさいっぱいカードに、1日をふりかえって記入する。

< 事後指導 >

- ・カードに先生がサインか印を押して、道徳のノートに貼らせる。
- ・今後の学級経営や児童の指導に生かす。

< やさしさいっぱいカード >

やさしさいっぱいカード

12月6日(月)～10日(金)は、「やさしさいっぱい週間」です。

☆ みんなのためになることをしよう！

☆ 友だちにやさしくして、笑顔になろう！

筆 箱 ()

	◎一たいへんよくできた		○一だいたいできた		△一がんばろう
	6日 (月)	7日 (火)	8日 (水)	9日 (木)	10日 (金)
1 だれにでも、 ゆうげにあいさつ した。					
2 みんなとなか よく生活した。					
3 仕事を進ん ですることが できた。					
4 友だちにやさ しく親切にす ることができた。					
5 みんなのために進んでしたこと、友だちにしてもらってうれしかったことなどを自由に書きましょう。					

学級活動「やさしさいっぱい2年1組」

- ①やさしくされてうれしかったこと
- ・「いっしょに遊ぼう」と言ってくれた
 - ・いっしょに帰ってくれた。
 - ・ころんだときに「大丈夫？」と言ってくれた。
 - ・わからないときに教えてくれた。
 - ・悲しいとき、楽しい気分にしてくれた
- ②やさしくしたこと・したいこと
- ・ころんだときに、手をかした。
 - ・かけ算のいいやり方を教えた。
 - ・ひとりでいた子といっしょに帰った。
 - ・こまっている人がいたら、やさしく声をかけてあげたい。
 - ・泣いていたら、なぐさめたい。
 - ・みんなにやさしくしたい。

3 成果

- ・人権メッセージへの応募を通して、児童がそれぞれに人権についての意識を高めることができた。
- ・人権週間（やさしさいっぱい週間）の実施によって、「友だちにやさしくしよう」という意識が高まった。

II 今後の課題

- ・児童が人権意識を高めていくことができるように、日々の教育活動の中でさらに工夫した活動を取り入れていく必要があると考える。
- ・児童が生き生きと笑顔で生活できる学校づくりを全職員で協力して行っていくことが大事であると思う。

III 人権コーナーの設置

今年度、児童が行き来する昇降口の突き当たりに人権コーナー（やさしさいっぱいコーナー）を設置した。人権メッセージを掲示している。今後も活用を工夫していきたいと考えている。

